

不変と革新

～長寿経営に向けて～

事業をつなぐ



ヨータイの前身である大阪窯業耐火煉瓦は1936年、高品質な耐火レンガの安定調達を目的に設立された。幕末以降に流行した洋風建築物の外装材として需要を伸ばした赤レンガが、セメントに置き換わっていく。耐火レンガは、セメントを焼成する炉「キルン」に必要とされていた。

高度経済成長期、鉄鋼各社が生産を拡大する中、炉を構築する耐火物の需要が急伸。同社は、企業系列に属さない独立メーカーとして「最高の品質、最低の原価、的確な納期」を掲げ「大手取引先との信頼関係を大事に」（田口三男社長）安定供給を第一とするモノづくりを続けてきた。鉄やセメントのほか非鉄

84年には当時まだ珍しかったロボを導入。工場自動化の先鞭をつけた（日生工場を高台から見下ろす稲荷神社）

ヨータイ

水素研究、脱炭素社会に先手

金属や電子部品の製造工程、環境装置などに幅広い顧客を抱える。さまざまな要望に応える製品や生産技術の革新が成長の源泉となっており、現場には進取の気性が息づく。

84年には当時まだ珍しかったロボットを、日生工場（岡山県備前市）のプレス工程に導入。構造不況下で迫られた生産性の改善のために挑戦し、工場自動化の先鞭（せんべん）をつけた。田口社長は「新技術の導入は業界の、どこよりも早く手がけてきた」と訴求する。

社会的責任を意識した経営にも努める。エネルギー多消費型産業ではあるが、脱炭素社会を見据えた技術開発も積極的だ。焼かない「非焼成耐火物」の開発や水素・アンモニアなど代替燃料の研究でも先手を打つ。

非オーナー企業であり、歴代社長は現場発の発想を重視してきた。田口社長も「考えを形にできる、行動できる人づくり」を心がけている。日生工場を見下ろす小高い丘の上には、工場開設時から稲荷神社が鎮座する。当時の関係者が、安全と事業の発展を願ったであろう社は工場の象徴。今日も社業を見守っている。

【企業メモ】1936年（昭和11）に大阪窯業耐火煉瓦として創業。87年に現社名に変更し、93年に大阪窯業と合併した。主要生産拠点は岡山県備前市と本社のある大阪府貝塚市。鉄鋼から工業炉全般に広く展開する耐火物総合メーカー。